

新規選定 養蚕を発達させた三階建農家主屋群を特徴とする但馬地域の山村集落

養父市大屋町大杉伝統的建造物群保存地区

所在地 養父市大屋町大杉字大杉の全域並びに字奥山、字大町及び字ムショウ谷の各一部

面積 約5.8ヘクタール

大杉は、兵庫県の北部、但馬地域屈指の養蚕地帯であった大屋川流域の山村集落である。平地が少なく、冬は雪も多い大屋川流域では、古くから養蚕や家内製糸が副業として営まれた。18世紀後期には生糸の品質が向上して丹後ちりめんの原料糸となり、横浜港開港後は輸出用生糸としても売られた。群馬県内で考案された養蚕技法が、大屋川流域に広まる明治中期には、但馬地域でも器械製糸が発達して養蚕と製糸の分業が進んだため、大杉でも繭の生産量拡大に力を注ぎ、明治後期から昭和前期にかけて養蚕の最盛期を迎えた。

保存地区は、大杉の集落のうち、大屋川左岸に立地する約5.8ヘクタールの範囲である。大屋川に流れ込む谷川が成す狭小な扇状地に家を集め、その周辺には耕作地を設け、谷川沿いには棚田を築く。谷川からは水路を引いて、生活用水を配し、各所に洗い場を設ける。

主屋は二階建又は三階建の切妻造、棧瓦葺で、江戸後期の茅葺民家に、明治後期以降、蚕室とする二階や三階を増築したもの、または、その形式に倣って新築したものが多い。蚕室は蚕棚の規模に合わせて造るため、どの建物も、二階と三階の階高がほぼ同じとなる。屋根には越屋根を設け、壁四面に窓を並べて通気性を高める。窓は、蚕室を清潔に保つため、床面まで窓枠を下げた縦長の形状とする。外壁は二階以上を土で塗り籠める。このような特徴を持つ農家主屋の中でも、特に三階建がまとまって残り、独特の景観を成す。

養父市大屋町大杉伝統的建造物群保存地区は、但馬地域山間部の厳しい自然環境の中で養蚕を発展させるために成立した木造三階建の特色ある農家主屋が、谷川の水を生かした集落の構成を留めながら、社寺建築、石垣、水路等と共に地方色豊かな歴史的風致を良く伝え、我が国にとって価値が高い。

<参考>

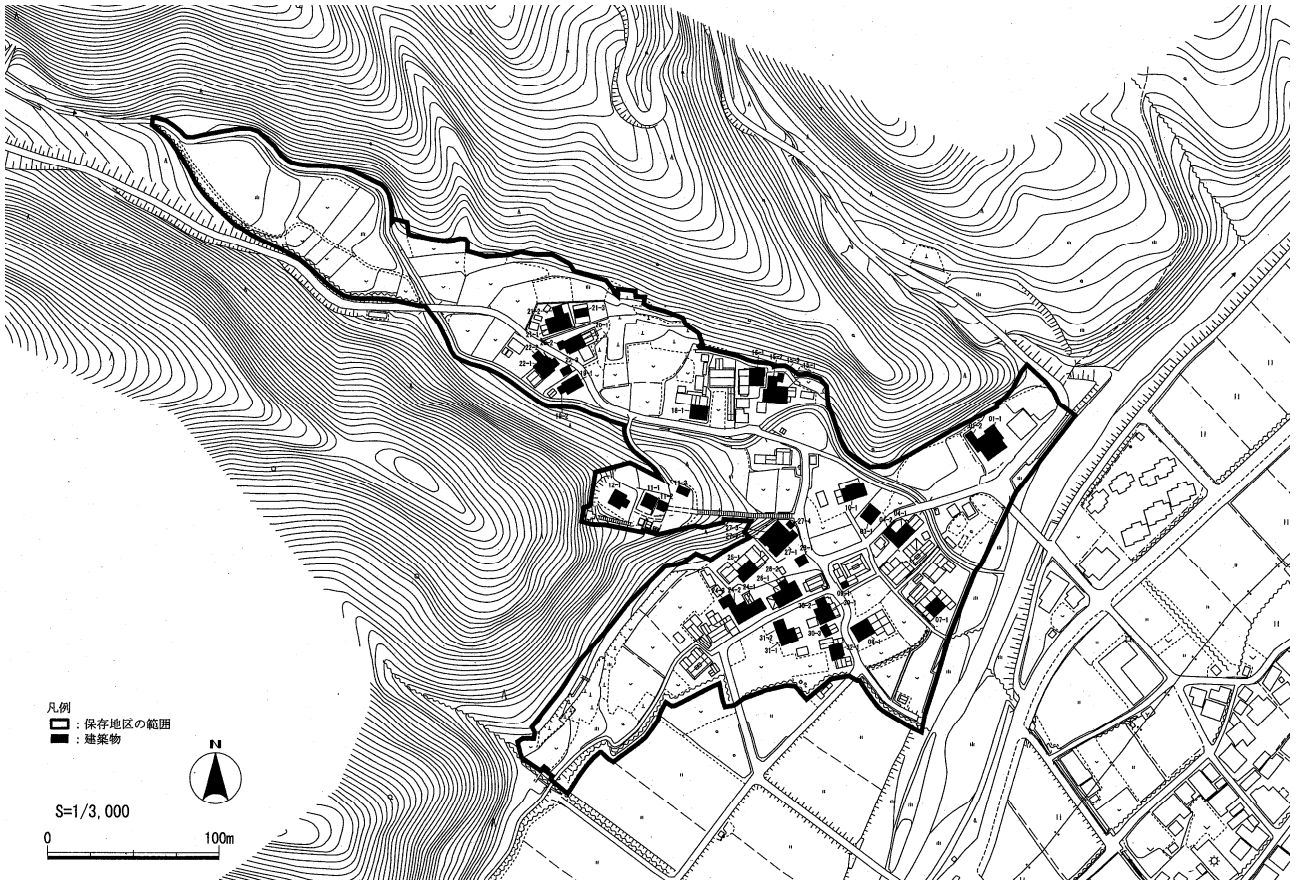
1. 保存地区西側の山腹には二宮神社が鎮座し、毎年8月16日にはざんざこ踊（県無形民俗文化財、選択無形民俗文化財）が奉納される。
2. 保存地区内では、国家戦略特区による旅館業法の特例を活用して2棟の農家主屋が宿泊施設に改修され、平成27年10月より開業している。



保存地区鳥瞰写真
(写真提供：養父市教育委員会)



保存地区を特徴づける三階建の農家主屋
(写真提供：養父市教育委員会)



養父市大屋町大杉伝統的建造物群保存地区の範囲